

健康寿命延伸への貢献

高齢になっても元気で過ごせる社会に貢献します

環境変化と社会課題

- 高齢者の生活の質の向上
- 国や地域の医療・介護費の抑制

課題解決ストーリー

サラダ(野菜)と卵の栄養機能で、生活習慣病予防や高齢者の低栄養状態を改善します

サステナビリティ目標

サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして

- 1日当たりの野菜摂取量の目標値 350g※の達成に貢献する ※「健康日本21」(厚生労働省)に定める成人1日当たりの野菜の平均摂取量の目標値
- たんぱく質の摂取に貢献するために、卵の消費量アップを推進する

サステナビリティへの取り組み

野菜をおいしく楽しむサラダメニューの提案

地域の食文化を取り入れたサラダメニューを提案し、野菜摂取向上に貢献します。

愛知県は農業産出額では全国有数ですが、県民の野菜摂取不足が課題となっています。*

そこで愛知県民の野菜摂取増加をめざし、地元行政や有識者と連携して「あいち みんなのサラダ」プロジェクトを立ち上げ、2018年8月に実行委員会を設立しました。県民が好む「うま味」「食べ応え」「意外性」を備えた「あいちサラダめし」のメニューを提案。県内の飲食店を皮切りに、中食・内食へ展開を進め、野菜をおいしく楽しむ食生活を応援します。



サラダスタイルのご当地グルメ「あいちサラダめし」

※ 資料:厚生労働省 平成28年国民健康・栄養調査

卵の栄養・健康価値の発信

卵には、ひよこが孵化するために必要な栄養素がすべて備わっていて、成人が1日に必要な主な栄養素のうち、ビタミンCと食物繊維以外を幅広く摂取することができます。このため、食物繊維とビタミンCに富む野菜や果物と、卵を組み合わせることで理想的な栄養バランスに近づきます。また、野菜の栄養素の一部は卵と一緒に食べることで吸収されやすくなると学術論文にて報告されています。

卵の栄養や健康価値をより多くの方に知っていただくため、売場でのパネルなどの掲示、店頭での勉強会や料理体験会などの開催、小冊子「タマゴの魅力」(タマゴ科学研究会)を配布するなど、卵の優れた価値を幅広く発信しています。



小冊子「タマゴの魅力」(タマゴ科学研究会発行)

Topics 卵殻カルシウム配合の栄養強化食品

ベトナムでは、骨粗しょう症が増加しカルシウム不足が社会的な課題となっています。当社グループは、ハノイ国立栄養研究所と共同でベトナム人女性を対象に行った基礎研究により、卵殻カルシウムが人間の骨密度増加に有効である可能性を示唆する結果を得ました。

キューピーベトナムでは、2017年12月から卵殻カルシウムを配合した栄養強化食品を販売しています。米食が盛んなベトナムで、炊飯時に加えて炊くだけで手軽にカルシウムを摂取できます。同様の商品を、日本では「元気な骨」という商品名で販売しています。



ベトナムの米売場での試食販売の様子

子どもの心と体の健康支援

食を通じて子どもの心と体の健康を支え、未来の活躍を応援します

環境変化と社会課題

- 食に関する知識獲得や体験機会の拡大
- 貧困の次世代への連鎖の低減

課題解決ストーリー

サラダ(野菜)と卵を活用した食育や共食の体験の場を提供します
子どもや子育て家族への食を通じた支援により、
子どもと家族・社会とのコミュニケーションを応援します

サステナビリティ目標

- 2030年までに、グループの食育活動などで接する子どもの笑顔の数を、100万人以上にする(2019年からの累計)

サステナビリティへの取り組み

国内での食育活動

創始者の「食を通じて社会に貢献する」という想いのもと、小学校の社会科見学をきっかけに1961年より工場見学(オープンキッチン)を開始、製造の様子と当社グループのものづくりへの想いを各地で伝えています。また、全国の小学校で従業員による出前授業「マヨネーズ教室」を開催、野菜摂取の大切さの講義とマヨネーズを手づくりして一緒に食べる体験を通じて、食の楽しさと大切さを伝えています。

調布市にある見学施設マヨテラスでは、3~6歳の幼児向けコースを設け、お子様の野菜嫌いを克服したいと願うご家族に向けたプログラムを実施しています。「子どもが初めて野菜を食べられた」などの喜びの声をいただいています。



マヨテラス 幼児向けコース

海外での食育活動

海外のグループ各社は、ビジネスを展開する地域の方々の「生活と健康」に貢献することをめざして、様々な食育活動を展開しています。

マレーシアは、東南アジアで肥満率が最も高く、糖尿病などの生活習慣病は、国における健康課題になっています。キューピーマレーシアでは、野菜摂取を通じて肥満になる児童を減らしたいとの思いから、2016年度から小学校で野菜を使ったサンドイッチ教室を継続的に開催しています。2018年度までに累計117回開催、のべ6,000人を超える児童に野菜摂取の大切さを伝えています。



マレーシアでの小学生向けサンドイッチ教室

キューピーみらいたまご財団

2017年4月に「キューピーみらいたまご財団」を設立、2019年度(第3期)までに食育活動に取り組む41団体、食を通じた居場所づくりに取り組む75団体への助成を行っています。設立趣旨は、従来進めてきたグループ独自の取り組みを進展させるとともに、私たちの想いを共有しうる団体の活動を支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献につなげていきたいという考えです。

助成先の団体の運営する「こども食堂」に当社グループの従業員も、参加しています。貧困や孤食などの課題を抱える子どもたちを、食の居場所から支える活動を経験し、食の大切さを知る機会になっています。



財団助成先の運営する「こども食堂」へグループ従業員も参加

資源の有効活用と持続可能な調達



自然の恵みに感謝し、地球の持続可能性に配慮します

環境変化と社会課題

- 食べられるのに捨てられる食品ロスの削減
- 持続可能な農業生産の推進

課題解決ストーリー

食資源を余すことなく有効活用し、食品廃棄を削減します
農業生産者との取り組みで、持続可能な農業を支援します

サステナビリティ目標

- グループで利用する主要な野菜の未利用部について、2021 年までに 30%、2030 年までに 90%以上を有効活用する
- 商品廃棄量を 2021 年までに 25%、2030 年までに 50%削減する(2015 年対比)

サステナビリティへの取り組み

■野菜の未利用部の有効活用

カット野菜の製造の際に生じるキャベツの芯や外葉などの未利用部を、大切な資源と考えています。

当社グループでは、野菜の未利用部を再生して、再生飼料(エコフィード)の活用に制限が多い乳牛用飼料へ活用することに成功しました。また、東京農工大学との共同研究により、この飼料の安全性と乳質を維持したまま乳量を増加できることが確認されました。

そして、「平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」において内閣総理大臣賞を、「第6回食品産業もったいない大賞」において農林水産省食料産業局長賞をそれぞれ受賞しました。

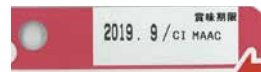


エコフィードを食べている乳牛の様子

■賞味期間延長による食品ロスの低減

日本国内で食べられるにも関わらず廃棄されてしまう食品ロスは、年間約646万t*と推計されています。当社グループでは、食品ロス削減に向けて、適正在庫の推進、返品削減、賞味期間延長などに取り組んでいます。

市販用介護食「やさしい献立」シリーズ57品目のうちレトルパウチ商品47品目（賞味期間18ヵ月または12ヵ月の商品）について、2018年9月製造分より賞味期限を「年月日表示」から「年月表示」へ変更し、あわせて賞味期間を延長しました。このシリーズは品目数が多いため年月表示による流通から店頭までのオペレーション簡素化が期待でき、同時に賞味期間を延長することにより、返品や廃棄の削減へ寄与できると考えています。



賞味期限年月表示例

※資料:平成27年度 農林水産省、環境省推計

■パッケージサラダの消費期限延長

株式会社サラダクラブでは、「野菜本来の抵抗力を活かし、なるべくダメージを与えないように洗浄すること」と「10℃以下の低温流通管理(コールドチェーン)」を両立させ、パッケージサラダの鮮度を維持する技術の確立に取り組んできました。

「野菜にやさしい製法(特許4994524号)」取得後、約4年間の検証を重ね、野菜へのダメージを更に抑えながら洗浄する技術を確立しました。その結果、「千切りキャベツ」の消費期限を1日延長することができ、加工日に加え5日間となります。

消費期限延長により、販売店では売れ残りによる廃棄ロスや売り切れによる販売機会ロスが低減できます。また、お客様には必要な時にまとめてご購入いただきやすくなります。



産地で収穫期を迎えたキャベツ

CO₂排出削減(気候変動への対応)



地球温暖化防止の実現に向け、CO₂排出削減に取り組みます

環境変化と社会課題

- 自然災害や農作物の質や収量の低下につながる気候変動の抑制

課題解決ストーリー

原料調達から商品の使用・廃棄まで、サプライチェーン全体を通じたCO₂排出削減を実現します

サステナビリティ目標

- グループの年間のCO₂排出量について、2021年までに 7.5%、2030年までに20%削減する(2013年対比)

サステナビリティへの取り組み

■異業種での共同幹線輸送

長距離トラック輸送から鉄道・船舶輸送へのモーダルシフトを推進し、CO₂排出削減やドライバーの負担軽減などの課題解決につなげています。

当社とライオン株式会社、日本パレットレンタル株式会社の異業種3社が2018年8月から実施している共同幹線輸送を対象に、「平成30年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」にて国土交通大臣表彰を受賞しました。

関東・四国・九州間を結ぶ日用品、食品および空パレット輸送について、実車率99.5%を伴う海運モーダルシフトを実施して、62%以上のCO₂排出削減。これらを異業種共同で実現したことが評価されました。



共用トレーラー輸送による実車率向上

■生産事業所への太陽光発電の導入

再生可能エネルギー発電への投資を通じて、脱炭素社会の実現への貢献に努めています。

2016年12月に茨城県にあるキューピー五霞工場で、グループ初の自家消費型の太陽光発電設備を稼働しました。続いて、海外でも2018年5月キューピータイランドの生産事業所に、出力1,000KWの太陽光発電設備を稼働し、工場で使用するエネルギーの一部として活用しています。

従来からの固定価格買取制度に対応した太陽光発電設備と合わせ、グループ生産事業所全体の電力使用量約2%に相当する再生可能エネルギーを生み出しています。



太陽光発電を導入したキューピータイランド

Topics AI活用による空調の運用最適化

東京都調布市にある仙川キューポートはグループのオフィスと研究施設を集約した最新施設の一つです。省エネ設備を積極的に導入し、運用の最適化にも継続的に取り組み、その高い設計性能を発揮させることに成功しています。

さらに、株式会社日立製作所との協働により、クラウドサーバ上のAIを利用して、気象予報データと空調機器(冷凍機、ヒートポンプ、ガスボイラー、コージェネレーション発電)の稼働状況などに基づく最適化運転パターン分析を実現、運用を検証しました。

導入前に比べ、空調機器のエネルギー使用量(原油換算)を夏季・冬季で11~12%、中間期(春季)で37%削減しました。AI活用により、さらなる最適化をめざします。



AIによる最適化運転パターン